

南は13連覇か初Vか

観光リラックス

「オープンツアー」効果で13連覇を目指す。午前中に軽めの調整を終えると、午後はバスで櫻津や野付半島などの観光地に出向き、リラックスした時を過ごした。相馬健祐主将(3年)は「準決勝の内容が悪かったが、気持ちを切り替えられて決勝を迎えられそう」と喜んでいた。

6年間の集大成

6年間の成果を示す時が来た。笑顔が随所に出る前日練習に、荒木竜平監督(48)は「雰囲気が一番いいと思う」とうなずいた。中高一貫で築き上げて来たものには自信がある。小林健太郎主将(3年)は「これが最後の大会。6年間の人生がかかっている」と口元を引き締めるながら「普段通り」の決勝で健闘を誓った。

リラックスした表情で前日練習する札幌山の選手たち



◆北海道大会◆	
札幌山の手	87-0
大函館工	74-7
小樽南	43-5
小樽北	22日12:00
函館ラサール	64-0
北見	29-5
立命館	26-0
◆北海道大会◆	
札幌工	36-7
函館工	60-5
北見	21-10
遠野	22日13:30
北見	23-12
中標津	27-19
旭川	88-0

高校ラグビー北海道大会を、札幌山の手と函館ラサールは、ともに終始リラックスした前日練習を終えた。捕球の意識向上に、待ち続けた機会が来た。昨年完封負けした遠軽と、2年連続決勝でぶつかる。決勝前日、B谷本舞(3年)は悔しい思いをして、1年間やっていたかのように奮闘へ、気持ちを高めた。

改めて学んだ基本の大切さで、王者に挑む。8月19日、東福面で全国高校ラグビー13連覇し今年勇退した谷崎監督と元日本代表・川内鉄心氏(54)の指導を受けた。ポールの1億円の教えから学んだ基本の大切さを生かし、昨年完封負けした遠軽戦に

温泉で気分転換
1時間半の前日練習を終えた山内宣明監督(44)は「息を吐く感じが良かったので、過度な緊張感を保つ選手を頼もしく見つけた。午後には別海の温泉に行き、気分転換し、夜はミーティングで気持ちを高めさせた。指導官は1年間、どこにも負けない練習をしてきたから、試合後は立てないくらい、出し切ったほうがいいと期待した。

平均体重は遠軽の82.125kgに対し、72.25kg。体格が劣っても坂口監督は体が小さいがピラニアのよう集まってぶつかりたいとひたむきなライオンズで勝負を挑む。FJ松尾監督(2年)は「去年もみんなが体を張ってタックルしていた。決勝では全てをぶつけた」と誓いを立てた。

初Vが00年、2度目が04年、08年は連V、5輪年は好成績を残してきた。坂口監督は何とかミラクルを起こしたい。8年ぶり栄冠へ、思いを強くした。(秘田 秀人)